



内務省特報



●内務省告示第四百七十八號

市制第三條及町村制第三條ニ依リ昭和十六年八月十日ヨリ長野縣諏訪郡上諏訪町、豊田村及四賀村ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ諏訪市ヲ置ク

昭和十六年八月一日

内務大臣 田邊 治通

●内務省告示第五百六號

市制第三條及町村制第三條ニ依リ昭和十六年九月十日ヨリ三重縣阿山郡上野町、小田村、三田村、城南村、新居村、長田村及花之木村ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ上野市ヲ置ク

昭和十六年八月二十三日

内務大臣 田邊 治通

近衛内閣一年史を顧る

近衛第二次内閣は滿一ヶ年の戦時施政において幾多の歴史的事を續なしとげたが、今これを回顧すれば左の如くで變轉極らない

世界情勢に對應して外交に内政に劃期的な諸施策を樹立遂行して來たことが判る。

昭和十五年七月

十六日 米内内閣總辭職。

十七日 宮中に重臣會議開催同夜近衛公爵に後繼内閣組織の大命降下す。

十九日 松岡外相、東條陸相、吉田海相を決定し茲外莊に四首腦會議を開催、國防、外交の基本的統合を確立。

二十二日 第二次近衛内閣成立。

八月

一日 基本國策要綱發表。

九日 官吏制度改革要綱決定。

十五日 民政黨解黨、政黨全部解消す。

二十二日 在外使臣四十九名に召還命令を發し、外交陣刷新を策す。

二十八日 新體制第一回準備會開かれ、首相指導理念を闡明新體制運動發足。

三十一日 日支交渉完結、共同聲明を發す。

九月

五日 吉田海相辭任、後任に及川大將決定。

十二日 小林特派使節蘭印著。

二十三日 日佛兩國政府諒解の下に皇師佛印へ平和進駐。

二十四日 國土計畫設定要綱廟議決定。

二十五日 皇軍更に海防より佛印に進駐。

二十七日 三國同盟ベルリンで調印、畏も詔書換發さる。

二十七日 小川、秋田、金光三專任大臣就任。

十月

三日 開院參謀總長宮殿下御離任、後任に杉山大將親補。

七日 初の地方長官會議召集。

十二日 大政翼賛會發會式舉行舉國政治體制確立さる。

十五日 内閣情報部を擴充し情報局設置を決定。

二十二日 小林使節バタヴィア發歸京の途につく。

十一月

五日 日滿支經濟建設要綱決す。

八日 勤勞新體制確立要綱決定。

十日 紀元二千六百年式典舉行。

十三日 支那事變問題に關する御前會議を開催。

二十四日 元老西園寺公麿去。

二十七日 臺灣總督に長谷川大將、駐米大使に野村吉三郎大將新任。

新任。

二十八日 汪精衛氏國府主席となる。

二十九日 議會開設五十年記念式典舉行。

三十日 日華基本條約調印共同宣言を行ふ、國府を正式に承認芳澤元外相を蘭印に派遣。

十二月

四日 平沼男國務相となる。

六日 選舉制度改正案廟議一決。

七日 經濟新體制要綱を決定發表、本多能太郎氏駐支大使に新任。

十六日 臨時中央協力會議開かる。

二十日 駐獨大使に大島浩中將を再起用。

二十一日 内閣一部改造を斷行内相に平沼男、法相に柳川中將就任。

二十三日 日泰友好和親條約成立。

二十四日 第七十六議會召集。

三十一日 官界新體制の一項たる文官制度改正勅令案成る、岸商工次官更迭。

昭和十六年一月

十四日 興亞諸團體の指導方針決定。

二十一日 日ソ漁業暫定協定成る、第七十六議會再開。

二十二日 人口政策確立要綱閣議決定。

二十五日 大政翼賛會興亞團體統合申合。

二十九日 劃期的國家總動員法改正廟議一決。

三十日 十億の臨時軍事費追加豫算兩院通過成立。

三十一日 泰佛印停戰協定成る。

二月

七日 泰佛印紛争調停會議東京に開かる。

十五日 百十七億明年豫算成立。

二十七日 國防保安法案成立。

三月

一日 支那派遣軍總司令官に畑大將親補。

二日 帝國議會自然休會に入る。

十一日 泰佛印紛争調停成立、三國共同聲明發表。

十二日 松岡外相、訪歐の途に就く。

二十日 改正總動員法施行。

二十六日 第七十六議會閉院式行はる。

二十七日 翼賛會有馬事務總長辭表提出、松岡外相ヒットラー

總統と初會談。

二十九日 翼賛會副總裁に柳川法相、事務總長に石渡氏就任決定。

四月

二日 小倉正恒氏國務相として入閣。

四日 商相に豊田海軍次官、企畫院總裁に鈴木中將親任。

九日 伏見軍令部總長宮殿下御退任、後任に永野大將親補。

十三日 日ソ中立條約モスコにて調印。

二十二日 松岡外相空路立川著歸朝。

二十五日 日ソ條約効力發生。

五月

十九日 企畫院全面的に改組。

六日 日佛印經濟協定調印。

九日 佛泰平和條約成立。

十日 國防保安法施行、官界新體制に資すべく官民懇談會開く。

十四日 本多駐支大使政府と打合せのため入京。

二十七日 科學技術新體制確立要綱閣議決定。

六月

七日 クロアチア國を正式承認。

十日 興亞運動の強化統一『大日本興亞同盟』設立決定、改組

物審第一回總會開く。

十一日 農相更迭、後任に井野次官起用、日ソ通商交渉圓滿妥

結を見る。

十六日 第一回中央協力會議開かる。

十七日 汪精衛氏晴の入京。

十八日 兩陛下汪主席と御會見。

二十日 臺灣志願兵制創設閣議で決定。

二十二日 獨ソ戰爭勃發。

二十三日 近衛汪共同聲明を發表。

二十八日 政府國府に三億圓の借款許與。

七月

一日 獨、伊、羅、スロヴァキア、クロアチア五ヶ國國府承認

二日 新世界情勢に對應するため御前會議開催、西、洪、勃三

國國府承認。

五日 日佛泰關係條約批准書交換發效。

十日 對蘭印交渉を打切り芳澤使節歸朝。

十一日 財政金匭基本方策要綱決定。

十二日 泰佛國境劃定帝國委員、補助委員任命。

自稱岡山縣眞庭郡中和村西山直彦（當年三十三）は今朝午前八時過ぎ淀橋區西大久保一の四二九、平沼國務大臣私邸應接間において同大臣と對談中所持せる拳銃をもつて大臣を狙撃し、頸部に輕傷を與へたるをもつて大臣は犯人を追跡せんとしたるが、一玄關先にて警戒員に逮捕せられたり、犯行の動機その他は目下取調

内務省特報

中。

長きあたりでは十四日國務大臣平沼駈一郎男遭難の趣をきこしめされ、いたく御軫念あらせられると承るが、同日天皇、皇后兩陛下には松永待醫を淀橋區西大久保の同邸に差遣はされる旨の御沙汰あらせられ、さらに病氣お尋ねとして果物一籠を下賜あらせられた。なほ松永待醫は長き思召を體して同日午後一時すぎ平沼男邸に赴いた。

兇彈を受けた平沼國務相の容體については、國民齋しく憂慮に包まれてゐるが、十五日午後四時主治醫塩田博士談として左の如く發表された。

體溫卅七度四分、脈搏七十、呼吸十八、食物朝メロン果汁百瓦、ぶどう果汁百瓦、午後一時林檎果汁百瓦、同四時スーブ百五十瓦以上、經過良好なり。

